

## 高大接続アクティブ・ラーニング研究会（2020）

The Association of Active Learning in High School/University Connection 2020

共同研究メンバー

○小西英行\*、金美德\*、谷川貴信\*\*、出岡由宇\*\*\*（○代表、執筆者）

**キーワード**：高大接続、アクティブ・ラーニング、問題解決、知識活用力、知識創造

**Keywords**：High school/university connection reforms, Active learning, Problem solving ability, Knowledge utilization power, Knowledge creativity

### 1. 高大接続アクティブ・ラーニング研究会をめぐる現状と課題

多摩大学では、附属・系列の目黒中学・高等学校、聖ヶ丘中学・高等学校（以下、附属・系列学校と表記）と連携して高大接続 AL プログラムを展開している。2020 年度においては、コロナ禍でオンライン中心の実施となったが、目黒イベントプロジェクト、プログラム体験、投資戦略の 3 プログラムが展開された。いずれも大学生向けのプログラムに、附属・系列学校の生徒が参加して実施している。

この多摩大学と附属・系列学校と連携した高大接続 AL プログラムの特徴としては、①大学ですでに実施されている AL プログラムに、高校生が参加、②高校ですでに実施されている AL プログラムに、大学生が参加という形式で行われているため、新たに AL プログラムを開発する時間や労力が軽減されることから、持続可能なプログラムとなっている。そして、今後は大学や高校でそれぞれ新たな AL プログラムを開発する際に、初期段階から相互に情報共有して相乗りを前提として企画することにより、無理なく高大接続プログラムとして展開することも可能となる。

よくある高大接続プログラムの例としては、大学側が、志願者確保のために、高校向けのプログラムを（半ば強引に）提案して実施する、あるいは高校側が、探究プログラムを、大学や教育産業に委託するなどのケースが多くみられる。こうしたケースでは、大学側が志願者増を、高校側が進学実績 UP や探究プログラムの実施を短期的に期待していて、高大接続改革が期待する「教育成果」という点で持続可能ではない。

よって、多摩大学と附属・系列学校とが連携するような、無理なく、無駄なく、持続可能な高大接続プログラムが、さらに学外の高校や大学との地域連携を図ってこそ、持続可能な地域連携型高大接続プログラムとして発展していくことになる。2021 年度からは、地域の高校の教職員や生徒と、まずは足りないところを補うことを目的に情報共有から初めて、無理なく無駄なく、持続可能なプログラムを目指して活動を進めていく予定である。

\* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

\*\* 多摩大学目黒中学校・高等学校 Meguro High School and Junior High School, Tama University

\*\*\*多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校 Hijirigaoka High School and Junior High School, Tama University

## 2. 高大接続アクティブ・ラーニング研究会の研究方法与対象

高大接続アクティブ・ラーニング研究会では、研究活動として、(1) 高大接続 AL 研究会（FD 勉強会）、(2) 高大接続先進事例調査、(3) 実践活動としての中高大連携プロジェクト（附属・系列の多摩大学目黒中学・高等学校、及び多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校と連携）を実施した。

## 3. 研究活動の成果

「高大接続アクティブ・ラーニング研究会」の、2020年4月～2021年3月までの12カ月間の研究活動の成果は、以下の通り。FD 勉強会は1件、中高大連携プロジェクトは3件企画運営された。なお、コロナ禍の影響により、高大接続先進事例調査としては、これまで実施してきた実地でのヒアリング調査は残念ながら中止となったが、外部のオンライン研究会に毎月参加することで、コロナ禍やオンライン下での情報収集に努めた。

### <研究活動>

(1) 「高大接続 AL 研究会（FD 勉強会）」（担当：小西、金、谷川、出岡）

① 2021年3月10日（水）16：30～18：00

多摩大学聖ヶ丘キャンパス 201 教室（ソーシャルディスタンス定員 130 人）

対象：経営情報学部教職員、多摩大学目黒中学・高等学校教員、多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校教員

### 【次第】

1. 研究会概要（研究会事務局）

2. 報告&討議

(1) 多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校「A 知探 Q プログラム」：出岡 由宇 教諭

(2) 多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校「聖ヶ丘高校の新カリキュラムについて」：石飛 一吉 校長

(3) 討議

3. 総括（金 美徳アクティブ・ラーニング委員長）

(2) 高大接続先進事例調査（担当：金、小西）

- 教育コロナ会議（高等教育）参加（2020.4.25）
- 教育コロナ会議（高等教育）参加（2020.5.2）
- 教育コロナ会議：公立中学高校の力強い取り組みから学ぶ組織マネジメント－園部中学校・若狭高等学校の事例から－参加（2020.5.9）
- 高等教育問題研究会 FMICS2020年6月例会（第726回：2020.06.27）参加
- テーマ：学生に選ばれる大学になる大学のオンライン授業～今ホットな最前線を取材しました～
- 高等教育問題研究会 FMICS2020年7月例会（第727回：2020.07.25）参加

- テーマ：学生に選ばれる大学になる part2 ～わたしたちのアクションの軌跡をお話しします～
- 「対面授業」の臨場感をオンライン授業で実現～ 2020年度多摩大学経営情報学部オンライン授業FD勉強会実施記録から～（報告：小西英行）
- 高等教育問題研究会 FMICS2020年8月例会（第728回：2020.08.29）参加
  - テーマ：学生に選ばれる大学になる part3 コロナ禍の大学教育再点検と学生募集
- 高等教育問題研究会 FMICS2020年9月例会（第729回：2020.09.26）参加
  - テーマ：大学淘汰の波に勝つキャンパス・ファシリティ：ポストコロナ 大学経営とキャンパスの変革が不可避な時代へ！

### (3) 中高大連携プロジェクト

#### ①「目黒イベントプロジェクトSG」（担当：村山教授）

- 参加者：多摩大学目黒中学校（2名）、多摩大学目黒高等学校（6名）
- 学修内容：今年度は、コロナ禍のため、校外でのキャンドルイベント、また学芸大学、洗足での商店街イベント活動参加が全て行えず、校内活動で何とか充実し、メンバーの資質を高める計画を自分達で行わせ、以下の内容が決定し、実行に進んだ。
  - 多摩大学ゼミ『日本大好きプロジェクト』所属の多摩大学生とのオンライン Zoom 会議（2回）
  - 二百羽鶴製作（自家製和紙使用）
  - 「コロナ禍を乗り越えるポスター」作製（6種、Zoom 会議1回）
  - 小論文コンクール参加（公益財団法人生涯学習振興財団主催、日本文化について）
  - 校内キャンドルナイトイベント実施
  - AL 祭参加
- 成果：
  - 7月13日 多摩大学ゼミ『日本大好きプロジェクト』所属の多摩大学生とのオンライン Zoom 会議（活動スタート）
  - 多摩大学生の指示・アドバイスを受けながら、校内キャンドルイベントの企画・準備（目的：社会人としての資質、自己確立を養成する。）
  - 紙漉き（和紙製作・全員が習得）
    - ⇒和紙に色をつけ、「オリジナル二百羽鶴」製作
    - ⇒学校近くの老人ホーム「ヒュッテ目黒」に贈呈（11月16日）
  - 洗足商店街連合会会長＋スタッフとオンライン Zoom 会議
    - ⇒「コロナ禍を乗り越えるポスター」作製について（6種）
    - ⇒洗足商店街連合会、大鳥商栄会へ寄贈（各店のガラス面に貼ってもらう）
  - 公益財団法人 生涯学習振興財団主催「第22回高校生小論文コンクール」  
高校生6名が参加（論文タイトルは「日本文化に関するもの」 入賞者なし）
  - 校内キャンドルナイトイベント実施（11月25日、LED キャンドル 300個使用）
  - AL 祭参加（高校2年生4名がプレゼンテーション発表）
  - タイトル… [コロナ禍 今、私たちにできること]

②「プログラミングプロジェクト」（担当：出原教授）

- 参加者：多摩大学目黒高等学校（16名）
- 学修内容：Python を使って、プログラミングの基礎を学んだ。プログラミングスキル判定ソフトの TOPSIC を使い、問題演習を通して学修を行った。
- 成果：
  - 7月1日 プログラミング SG ガイダンス
  - 8月25日 TOPSIC 登録
  - 9月1日 足し算と if 文
  - 9月8日 サイコロの裏面を求める・時計算
  - 9月15日 文字列の処理
  - 10月6日 文字列の要素を取り出す処理
  - 11月10日 四則演算問題
  - 11月24日 四則演算問題

③「投資戦略 SG」（日経 STOCK リーグ参戦）（担当：下井教授）

- 参加者：多摩大学目黒高等学校（15名）
- 学修内容：投資学習の1つのツールとして企画されたコンテスト形式の株式投資学習プログラムである、「日経 STOCK リーグ」に参加し、バーチャル株式投資システム上で500万円分の仮想株式投資資金をもちいて、ポートフォリオの構築し、ポートフォリオの値動きを観察しなぜそのような変化が生じたのかなどチームで議論し、レポートにまとめる。
- 成果：
  - 6月15日 内容説明
  - 7月21日～8月31日 基礎学習の取り組み（ネットにて）
  - 9月3日（木）下井先生による「株式投資に関するレクチャー」の実施（Zoom）
  - 10月8日（木）下井先生による「日経新聞の読み方レクチャー」の実施（Zoom）
  - 7月21日（火）～9月30日（水）仮想500万円によるバーチャル投資開始
  - 9月7日（月）～ グループ毎で中間報告会
  - 10月12日（月）～ グループ毎で中間報告会
  - 11月24日（火）～30日（月）ポートフォリオ構築
  - 12月12日（土）AL祭発表（高校2年生のみ）
  - 12月1日（火）～1月8日（火）レポート作成
  - 1月8日（火）最終レポート（日経 STOCK リーグ）提出（全員必須）

**参考文献・参考 URL**

- ・谷川貴信 他 「高大接続を通じた校外型アクティブラーニング活動の実践研究」平成30年度私立学校研究助成事業研究報告書 東京都私学財団（2019年1月）
- ・教育コロナ会議：[http://smizok.net/education/subpages/a\\_corona.html](http://smizok.net/education/subpages/a_corona.html)
- ・FMICS（高等教育問題研究会）：<http://www.fmics.org/index.htm>